

令和 3 年 6 月 2 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02272

研究課題名(和文) 批判的社会理論からのネオリベリズム批判

研究課題名(英文) Critique of Neoliberalism from the Standpoint of Critical Social Theory

研究代表者

日暮 雅夫 (Higurashi, Masao)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：7022239

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ドイツ・アメリカで展開する批判的社会理論のネオリベリズム批判を分析・総合した。ドイツ批判理論としてA.ホネットの承認論、アメリカ批判理論としてN.フレイザーのフェミニズム的批判理論、W.ブラウンのネオリベリズム・権威主義批判等を取り上げた。それらを総合して明らかとなったのは、ネオリベリズムは経済的市場だけに關わるのではなく、権威主義として、親密圏・市民的公共圏・グローバル化した政治等の多領域にわたって展開するものであることだった。ネオリベリズム総体を批判するためには、多領域にわたる総合的な対応策を考察せねばならない。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ネオリベリズム批判を批判的社会理論の観点から取り上げた研究は、まだ日本国内にはない。したがって当研究はこのジャンルの新しい領域を切り開くものであった。当研究は、ドイツとアメリカの批判的社会理論の国際的な到達水準を確認するとともに、その最新の中心テーマであるネオリベリズムを検討した。

当研究は現状の理論を総合することによって、ネオリベリズムは単に経済的領域に關わるだけでなく、権威主義として政治・経済・社会・文化の全域にわたるものであるという新知見を獲得した。この新知見によって、日本における経済・福祉政策の提起も可能となるし、一般社会の向上に資するであろう。

研究成果の概要(英文)： This research has analyzed and synthesized German and American Critical Social Theories' critique of neoliberalism. I have argued A Honneth's theory of recognition (a German critical theory), N. Fraser's feminist critical theory, and W. Brown's critique of both neoliberalism and authoritarianism (American critical theories).

Synthesizing those theories, I conclude that neoliberalism is not only related to the economic market, but it also develops in the shape of Authoritarianism in manifold areas (the intimate sphere, the civil public one, and globalized politics, etc.). In order to criticize neoliberalism as a whole, we have to elaborate synthesized measures in all of these manifold areas.

研究分野：社会思想史

キーワード：批判的社会理論 ネオリベリズム 権威主義 承認 フェミニズム 公共圏

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の学術的背景

①**海外の研究動向**。ドイツ・アメリカの批判的社会理論においては、2007年の世界経済危機以降、グローバルに展開するネオリベラリズムの批判が中心的課題となっている。例えば、ドイツ批判的社会理論を代表するA.ホネットは、日暮他が翻訳を出版した論集『私たちのなかの私』（2010）のなかの論文「労働と承認」においてネオリベラリズム批判を展開し、その脱規範化する市場原理主義に対して、①労働の尊厳ある形態、②最低賃金の保障という規範を対置した。

J.ハーバーマスは、『事実性と妥当性』（1992）で公共圏論の政治的意思形成を民主的法治国家の中心部に位置づけた。そこでは非経済的なアソシエーションが中心となり、市場経済の観点は理論の後景に退いていた。しかしハーバーマスは、21世紀初頭の世界経済危機以降、EU危機との関連で経済問題の検討を始めていた。

アメリカ批判的社会理論を代表するN.フレイザーは、ホネットとの論争（『再分配か承認か？』（2003））において、再分配＝経済問題を、承認の問題と結合することを主張していた。その後フレイザーは、自分の正義論を資本主義分析の総合的理論として展開するようになっていた。

以上のように、ネオリベラリズム批判、資本主義批判は、批判的社会理論の国際的な研究対象になってきていた。

②**国内の研究動向**。批判的社会理論の観点からネオリベラリズムを分析した研究は、まだ国内では見られなかった。参考になるものとしては、田中拓道編『承認』（2016）が、ホネットの承認論を社会政策に応用して、承認論パラダイムを再分配パラダイムと社会的投資パラダイムとを総合するものとして論じていた。

③**応募者のそれまでの研究**。応募者はこれまで、ホネットの承認論、ハーバーマスの民主的法治国家論・公共圏論、および両者の関係を、他の思想潮流と対比しながら研究してきた。論文「承認論の現在的座標」（『思想』No. 935）は、ホネットの承認論の構造を分析しフレイザーの思想等と対比して論じた。拙著『討議と承認の社会理論』（2008）は、ハーバーマスの討議理論・民主的法治国家論・公共圏論の展開をたどりホネットの承認論との関係を論じた。最近の拙編著『現代社会理論の変貌』序論では、ハーバーマスの公共圏論の今日的展開の可能性、拙論「ホネット『自由の権利』における「社会的自由」の境位」においてはホネットの承認論の最新の展開と経済的問題との関係を論じた。同書掲載の拙インタビュー「アメリカ批判理論の最前線」においては、N.フレイザーとともにネオリベラリズム批判に関して議論した。拙論「労働・承認・闘争」（2016）においては、ホネットの「労働と承認」論をもとに承認論からの労働の形態批判を論じた。ソウルにおける招待講演（Chung-Ang University, 2016）とそれを加筆修正して紀要に掲載した拙論「アクセル・ホネットのネオリベラリズム批判」は、ホネットのネオリベラリズム批判を総合的に示したものである。

2. 研究の目的

現在世界で進行しているネオリベラリズムは、市場原理主義に基づき格差社会をもたらしている。本研究は、ドイツ・アメリカで展開する批判的社会理論のネオリベラリズム批判を対比・分析して検討し、ネオリベラリズムの特徴を明らかにしようとするものである。ここでは、ドイツ批判理論としてA.ホネットの承認論、J.ハーバーマスの政治的公共圏の理論、アメリカ批判理論としてN.フレイザーのフェミニズム的批判理論、W.ブラウンのネオリベラリズム・権威主義批判等を取り上げる。それらを総合して明らかとなるのは、ネオリベラリズムは経済的市場だ

けに関わるのではなく、親密圏・市民的公共圏・グローバル化した政治等の多領域にわたって展開するものであり、それらを総合して対抗戦略を作る必要があることである。

既に述べたように、**批判的社会理論の観点からネオリベリズム批判**を取り上げた研究は拙見によればまだ国内にはない。したがって当研究はこのジャンルの新しい領域を切り開くものである。当研究は、批判的社会理論の国際的な到達水準を確認するとともにその最新の中心テーマを検討するものである。さらに当研究は現状の理論を分析するだけでなく、それらを総合することによって一つの図式にもたらそうとすることで新知見の獲得となっている。さらに、獲得された新知見によって、日本における公共圏を主導とする経済・福祉政策の提起も可能となるし、一般社会に向けてその普及を行うことで影響を与えうるであろう。

3. 研究の方法

本研究においては、批判的社会理論におけるネオリベリズム批判を分析するために、①ドイツにおける批判理論の分析、②アメリカにおける批判理論の分析、③両者の見解を比較総合しネオリベリズムの基本的特徴を明らかにする。実施に関しては、(1) 国内で理論研究を行い、国際学会・国内学会において研究報告、討論を行う。(2) H29年度後期に立命館大学学外研究としてカルフォルニア大学バークレー校において客員研究員として滞在する。その際、M.ジェイ、W.ブラウンの講義・セミナーに参加しインタビュー・討議を行う。(3) 帰国後、持ち帰った成果をもとに共著を企画する。さらに成果を、国際学会、国内学会、ワークショップ等で拡大に努める。

(1) 平成 29 年度

この年度においては日本国内において、①ドイツの批判理論、②アメリカの批判理論の読解・分析・討議を進め、③それらのネオリベリズム批判を総合して示す。

①に関しては、ホネットの『私たちのなかの私』(2010)を翻訳・出版する。その中の「労働と承認」、「イデオロギーとしての承認」中のネオリベリズム批判を総合する。さらにホネットは第二の主著『自由の権利』(2012)におけるホネットのネオリベリズム批判の戦略と、ホネットの戦略が歴史主義的になり過ぎた弱点を持つことを明らかにする。

②に関しては、フレイザーの『正義の秤』(2008)、「マルクスの隠れ家の背後へ」(2014)、「資本とケアの矛盾」(2016)等を分析し、資本主義批判を様々な諸領域と関連させて展開していることを確認する。

③以上の理論のネオリベリズム批判を総合して、ネオリベリズムが多領域にわたって展開することを一つの図式で表現することを試みる。

(2) 平成 30 年度

この年度の前半は、①に関しては、ホネットの『社会主義の理念』(2015)を翻訳分析し、社会思想史的な資本主義批判と社会主義の概念内容について検討する。②に関しては、引き続きフレイザーの「資本とケアの矛盾」(2016)等のネオリベリズム批判の新しい文献を分析する。さらに、他のアメリカの批判的社会理論として、カルフォルニア大学の M.ジェイのフランクフルト学派解釈、W.ブラウンのネオリベリズム・権威主義批判も検討対象とする。③として、ネオリベリズムが多領域にわたって展開することを一つの図式で表現することに努める。

この年度の後半は、立命館大学産業社会学部学外研究でカルフォルニア大学バークレー校でジェイにインタビューを行いレビューを受ける予定である。カルフォルニア大学批判理論プログラムに参加し、自分の批判的社会理論からのネオリベリズム批判の見解を討議に付す。カルフォルニア大学の M.ジェイと討議しインタビューを行う。その後インタビュー音声文字化し、ネイティヴチェックを受けた上で許可を得て翻訳する。

(3) 令和元年度

この年度は、さらに①ドイツの批判理論、②アメリカの批判理論の読解・分析・討議を進め、③ことにそれらのネオリベリズム批判を総合して図式化して提案し、国内学会・国際学会等で報告・討議し、論文化して公表する。ジェイと相談して企画した、批判理論の観点からネオリベリズムを批判する論集『アメリカ批判理論——新自由主義への応答』の翻訳をアメリカ批判理論研究会の会員によって行う。昨年度、海外で行ったインタビュー内容を検討し翻訳し解説を付して公表する。

(4) 令和2年度

①ドイツの批判理論研究として、ハーバーマスの論文を共著『ハーバーマスを読む』に掲載出版する。ハーバーマスの「市民社会」関係の報告を、立命館大学東アジアシンポジウムで行う。また、ホネットの『社会主義の理念』の翻訳分担部分を入稿する。②アメリカ批判理論に関して、ジェイとのインタビューを『思想』に掲載する。ジェイとの共編著『アメリカ批判理論』を出版する。③同書に執筆した「解題 新自由主義から権威主義の批判へ」において、ネオリベリズムが単に経済的問題だけではなく、心理・社会・文化的にも権威主義として展開したことを分析する。『アメリカ批判理論』翻訳者とオンライン・ワークショップを開催し、日本の研究会・学会でも報告する。

4. 研究成果

(1)平成29年度 本年度においては、①ドイツの批判理論、②アメリカの批判理論を読解・分析し、③それらのネオリベリズム批判を比較検討して学会で報告した。

①ドイツの批判理論 共訳書、アクセル・ホネット『私たちのなかの私』（法政大学出版局、2017年）を出版し、その数章の翻訳と「訳者あとがき」を担当した。この後書きにおいて、A.ホネットの理論展開におけるネオリベリズム批判の重要性を解明した。

②アメリカの批判理論 研究発表「批判的社会理論の対抗戦略」（第20回社会文化学会大会、立教大学）を行った。そこでは、ホネットとN.フレイザーのネオリベリズムの把握とそれへの対抗戦略を比較した。

③それらのネオリベリズム批判を比較検討 上報告を大幅に改稿して論文「批判的社会理論の、新自由主義への対抗戦略」（『立命館産業社会論集』）を発表した。

市民講座「ホネット『承認をめぐる闘争』を読む」（大阪哲学学校 <知の歴史>入門講座 フランクフルト学派第4回、大阪経済大学）を担当し、ホネットの承認論を展開した。また、研究発表「J.ハーバーマスの市民社会論——東アジア論への展開を補足として」（立命館大学アジア・プロジェクト研究発表会）を行い、ハーバーマスの市民社会論の今日的展開可能性を論じた。

その他、事典執筆：「討議と倫理」pp.326-7、日本社会学会理論応用事典刊行委員会編、『社会学理論応用事典』（丸善出版、2017年）を行った。

(2)平成30年度 ①ハーバーマス研究に関して、客員研究員として滞在先のカルフォルニア大学バークレー校のM.ジェイ教授と、批判的社会理論の展開の可能性について検討した。ことにジェイ教授の著作『日蝕後の理性』を紹介され、そのハーバーマス解釈を検討した。その成果をもとに帰国後、報告「ハーバーマス討議理論の現代的可能性」（進化経済学会3月）を行った。ホネット著『理性の病理』（法政大学出版局）中の3論文を翻訳し提出した。同様に『自由の権利』も「新自由主義」に関する部分を翻訳し提出し、その新自由主義批判を分析した。

②ジェイ教授とアメリカにおける批判的社会理論の展開について討議し、ことにその新自由主義批判の可能性について検討した。ジェイ教授と『21世紀のアメリカ批判理論——新自由主義に抗して』（晃洋書房）の諸論文を選出し共編し、出版社と交渉した。

③ホネットのネオリベラリズム批判をまとめ、報告「The Notion of Neoliberalism in the Critical Social Theory: Honneth and Fraser」(人文社会科学協会シンポジウム@カルフォルニア大学バークレー校、2018年)を行い、その討議から多くを学ぶことができた。

(3)令和元年度 ①ハーバーマス研究に関して、論文「ハーバーマスにおける討議の政治理論——『事実性と妥当性』における」を執筆し『ハーバーマスを読む』(ナカニシヤ出版)に提出し、校正を行った。ホネット研究に関して、ネオリベラリズム批判に関わる複数のホネットのテキストの翻訳を行いつつ、それらを分析した。まず、ホネット著の共訳書『理性の病理』を法政大学出版局から出版した。ホネットのドイツ語著作『社会主義の理念』の分担分の大部分を翻訳し、分析した。その分析をもとに、論文「社会主義の理念の今日的再構成——ホネット『社会主義の理念』の分析」を執筆発表した。

②アメリカ批判理論研究に関して、アメリカにおいてネオリベラリズムがもたらした政治状況を分析して小論「アメリカの市民運動の現在」を執筆し『社会文化ハンドブック』(晃洋書房)に掲載した。ジェイとの共編著『アメリカ批判理論』を、立命館大学のアメリカ批判理論研究会の会員で分担翻訳し研究会を開催した。その際、アメリカの政治状況を批判理論の側から分析し、アメリカ批判理論がネオリベラリズム批判から権威主義批判へと展開した、と捉えた。

③国際パネルディスカッション『ライブニッツ講義、ライナー・フォアスト教授、報告 Dr. マーモウド・バッシオーニ、Dr. エヴァ・ブッデベルク、日暮教授とのパネルディスカッション』(立命館大学創思館カンファレンスルーム、2019年3月29日)を司会し報告を行った。その際、批判理論の観点から移民等の多文化主義の問題を論じた。

(4)令和二年度 ①ハーバーマス研究に関して、論文「ハーバーマスにおける討議の政治理論——『事実性と妥当性』における」を掲載した『ハーバーマスを読む』(ナカニシヤ出版)を出版した。報告「J. Habermas' Theory of Civil Society, and East Asia」を、zoomで行われた国際シンポジウム「Ecological-Friendly Welfare States and Civil Society in Asian Countries」(立命館大学、2021年3月13日)で行った。ホネット研究に関して、ホネットのドイツ語著作『社会主義の理念』の分担分を翻訳し入稿した。

②アメリカ批判理論研究に関して、「〈インタビュー〉アメリカ批判理論の発展と今日の課題——マーティン・ジェイに聞く——」を『思想』2020年5月号に掲載した。それは、ジェイの思想形成をアメリカ批判理論の形成史と関連させて展開したものである。『アメリカ批判理論：新自由主義への応答』(マーティン・ジェイ/日暮雅夫共編)晃洋書房、2021年3月)を出版した。ここでは、ジェイの「序文」、論文、W. ブラウンの論文を翻訳し、「解題 新自由主義から権威主義の批判へ」において、アメリカ批判理論が、新自由主義批判から権威主義批判へと至っていることと分析した。

③この共編著に関連して、個人研究発表「新自由主義から権威主義の批判へ——M. ジェイ・日暮雅夫共編『アメリカ批判理論』の意義」(社会文化学会第23回大会、2020年12月13日)を行った。また、オンライン・ワークショップ「アメリカ批判理論からの挑戦」『アメリカ批判理論：新自由主義への応答』出版記念イベント(2021年3月24日)を企画して実施・司会し、そこで報告「全体の構想：新自由主義から権威主義の批判へ」を行い、広く一般の方々と討議した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 日暮雅夫、マーティン・ジェイ	4. 巻 No.1153
2. 論文標題 インタビュー アメリカ批判理論の発展と今日の課題 マーティン・ジェイに聞くー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 87-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日暮雅夫	4. 巻 第150号
2. 論文標題 社会主義の理念の今日的再構成 ホネット『社会主義の理念』の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季報唯物論研究	6. 最初と最後の頁 40-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日暮雅夫	4. 巻 8月号
2. 論文標題 書評・永井務著『現代資本主義の終焉とアメリカ民主主義 アソシエーション、プラグマティズム、左翼社会運動』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季報唯物論研究	6. 最初と最後の頁 150-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日暮雅夫	4. 巻 第53巻4号（通巻176号）
2. 論文標題 批判的社会理論の、新自由主義への対抗戦略 A. ホネットとN. フレイザー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『立命館産業社会論集』	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Masao Higurashi
2. 発表標題 The Notion of Neoliberalism in the Critical Social Theory: Honneth and Fraser
3. 学会等名 Humanities & Social Sciences Association at University of California, Berkeley (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日暮雅夫
2. 発表標題 ハーバースマス討議理論の現代的可能性
3. 学会等名 第23回進化経済学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ライナー・フォアスト、Dr.マフムード・バッシオーニ、Dr.エヴァ・ブッデベルク、日暮雅夫
2. 発表標題 ライナー・フォアスト教授、報告Dr.マフムード・バッシオーニ、Dr.エヴァ・ブッデベルク、日暮教授とのパネルディスカッション
3. 学会等名 ドイツ研究振興協会、ライブニッツ講演会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日暮雅夫
2. 発表標題 「批判的社会理論の対抗戦略 新自由主義批判のために」
3. 学会等名 社会文化学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 日暮雅夫
2. 発表標題 新自由主義から権威主義の批判へ M.ジェイ・日暮雅夫共編『アメリカ批判理論 新自由主義への応答』の意義
3. 学会等名 社会文化学会第23回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masao Higurashi
2. 発表標題 J.Habermas ' Theory of Civil Society, and East Asia
3. 学会等名 International Conference: Ecological- Friendly Welfare States and Civil Society in Asian Countries: Based on Interdisciplinary studies、立命館大学(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 日暮雅夫
2. 発表標題 全体の構想：新自由主義から権威主義の批判へ
3. 学会等名 オンライン・ワークショップ「アメリカ批判理論からの挑戦」『アメリカ批判理論：新自由主義への応答』出版記念イベント
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 アクセル・ホネット、出口剛司 / 宮本真也 / 日暮雅夫 / 片上平二郎 / 長澤麻子訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 311
3. 書名 理性の病理 批判理論の歴史と現在	

1. 著者名 社会文化学会編（日暮雅夫）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 129
3. 書名 学生と市民のための社会文化研究ハンドブック	

1. 著者名 日暮雅夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 884頁
3. 書名 社会思想史事典	

1. 著者名 アクセル・ホネット著、日暮雅夫／三崎和志／出口剛司／庄司信／宮本真也訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 368
3. 書名 『私たちのなかの私 承認論研究』	

1. 著者名 日本社会学会理論応用事典刊行委員会編、日暮雅夫	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 948
3. 書名 『社会学理論応用事典』	

1. 著者名 田村哲樹・加藤哲理編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 306
3. 書名 ハーバースを読む	

1. 著者名 マーティン・ジェイ / 日暮雅夫共編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 226
3. 書名 アメリカ批判理論：新自由主義への応答	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------